



# ほり スクールソーシャルワーカーだより

イこと ほりかわしげとし

40

## ☆ 世界が一つになりませんように の巻 ☆

わたしは毎週金曜の夜、NHK-R1 放送の「飛ぶ教室」という番組を聴いています。今日は、12月11日放送分冒頭の、高橋源一郎氏のコラムで耳にしたこの言葉からの連想を書かせて頂きます。

インターネットの登場は、世界を近くしました。夢のような世界が広がる期待をもたらしました。でも、わたしの周りでは、ごくごく一部の世界につながり、運転中、歩行中、授乳中もスマホに捕われってしまった人を見かけました。悲しい期待外れです。

☆

あなたは SNS でのつながりを持っていませんか？。以前わたしは、フェイスブックに登録していました。わたしの書き込みを読むことが出来るのは、友だちのみ。でも、ページを開くたびに、「知り合いかも」と登録していない知り合い、友だちの友だちが顔を見せま

す。わたしが求めるつながりは、登録している人たちだけで良いのに。そうなのです。わたしには、「友だち百人」は、出来なくて良いのです。百人以上の職場にいたことがあります。顔は見知っている百人です。でもその中で、言葉を交わす人は、ごく一握りでした。わたしの「友だち百人」のイメージは、それです。そして、SNS のつながりが増える事が、こころのどこかで、クモの巣に捕まったチョウチョをイメージしてしまうのです。

★ ☆

インターネットを通じても、瞬時に情報共有が出来る。でも、流れきた情報がすべて正しいわけではありません。最初に流れた情報は、素早く伝わり、みんなが同じ方向を向いて発言を重ねる傾向があります。それがこわいのです。

フェイスブックの友だちは、わたしみたいな臆病者ではないので、ある人は、海外にまで友だちを作っています。そんな流れの中でおぼれそうになって、フェイスブックへの書き込みを止めました。

☆ ★ ☆

「世界が一つになりませんように」。わたしもそう思う一人です。インターネットの海でおぼれたくない。周りが見えなくなると、知らぬ間に他の人と衝突してしまうのがこわいのです。「友だち百人」。昨日まで友だちだと思っていた人たちが一斉にわたしを責める。そうならないように、わたしが、わたしらしくしていることを知っている、そんな友だちとだけ、つながりたいと考えています。わたしが考える種類の友だちを百人も、わたしには到底作れません。



みんなちがって、みんな良い